

学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 英語英文学科

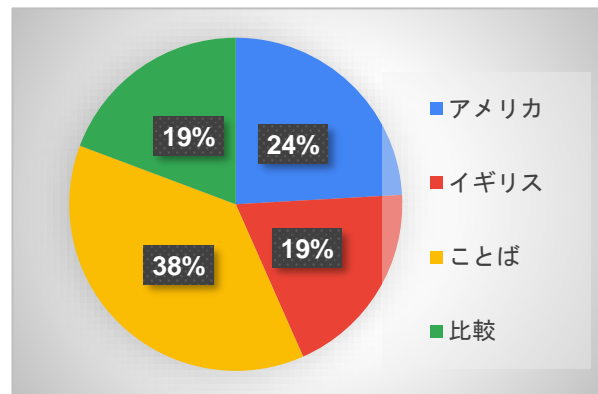
回収結果

学部	文学部				人間総合学部				合計
	国語国文	フ語フ文	英語英文	学部計	児童文化	発達心理	初等教育	学部計	
回答数	106	101	83	290	53	53	74	180	470
卒業生数	119	106	107	332	58	59	75	192	524
回答割合	89.1%	95.3%	77.6%	87.3%	91.4%	89.8%	98.7%	93.8%	89.7%

卒業生数には2020年9月卒業生、2021年3月卒業生を含む

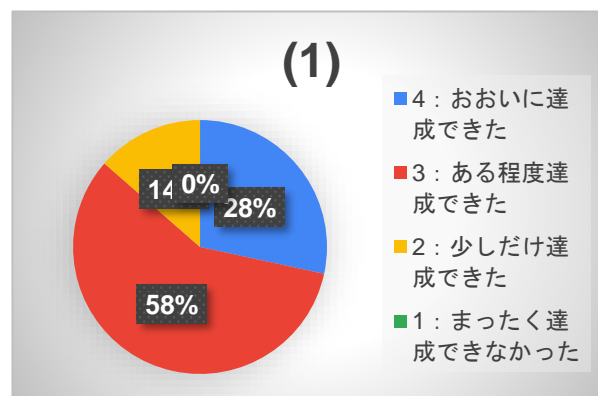
あなたの専門分野は？

アメリカ	20
イギリス	16
ことば	31
比較	16
	83



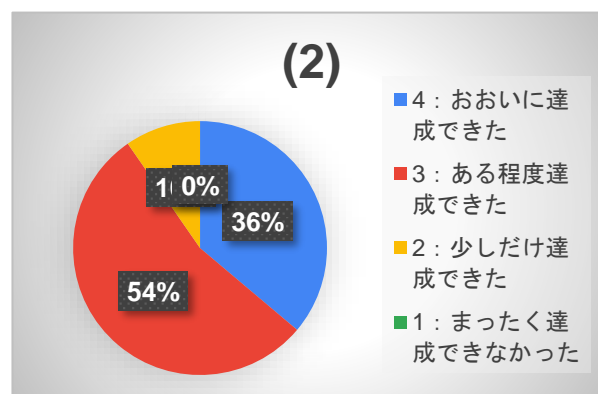
(1) 時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	23
3：ある程度達成できた	47
2：少しだけ達成できた	11
1：まったく達成できなかった	0
	81



(2) 時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。

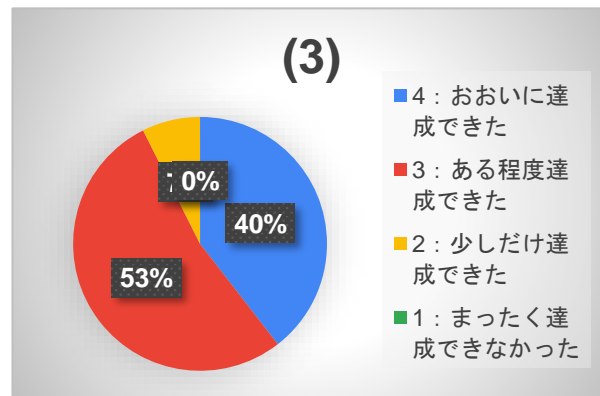
4：おおいに達成できた	30
3：ある程度達成できた	45
2：少しだけ達成できた	8
1：まったく達成できなかった	0
	83



学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 英語英文学科

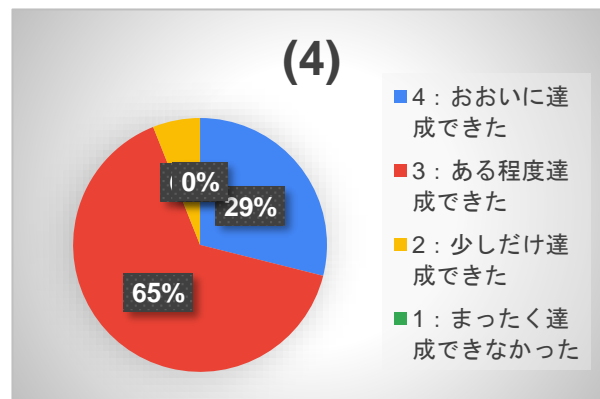
(3) 現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	32
3：ある程度達成できた	43
2：少しだけ達成できた	6
1：まったく達成できなかった	0
81	



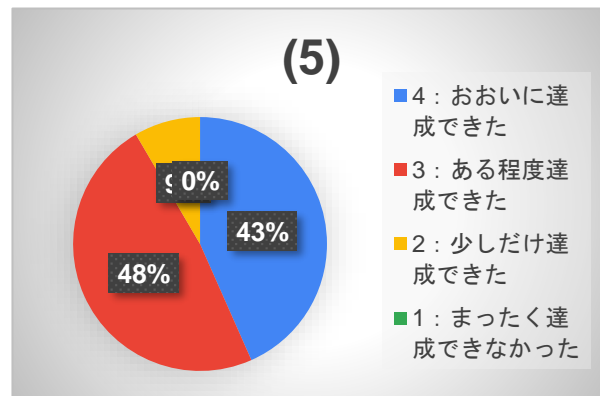
(4) 専攻する言語と文学、文化に関して、専門的な知見と技能を身につけている。

4：おおいに達成できた	24
3：ある程度達成できた	54
2：少しだけ達成できた	5
1：まったく達成できなかった	0
83	



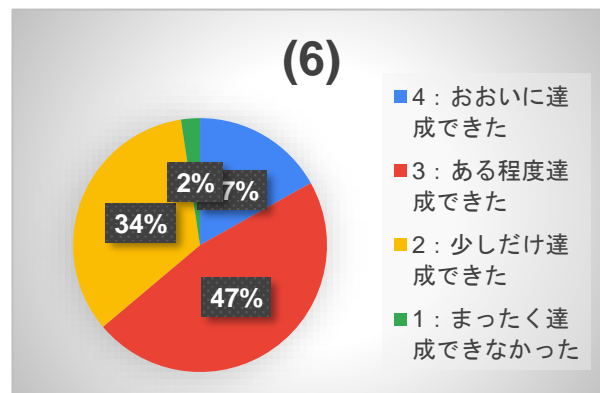
(5) 専攻する言語や文学、文化について、特定の問題を掘り下げ、自ら調査、研究して考えをまとめることができる。

4：おおいに達成できた	36
3：ある程度達成できた	40
2：少しだけ達成できた	7
1：まったく達成できなかった	0
83	



(6) 専攻する言語について、高度なコミュニケーション能力を身につけている。

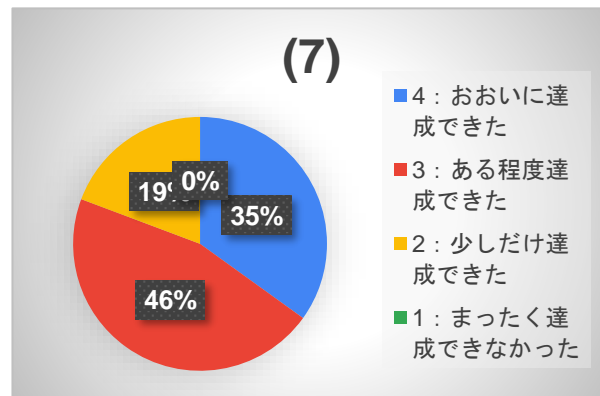
4：おおいに達成できた	14
3：ある程度達成できた	39
2：少しだけ達成できた	28
1：まったく達成できなかった	2
83	



学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 英語英文学科

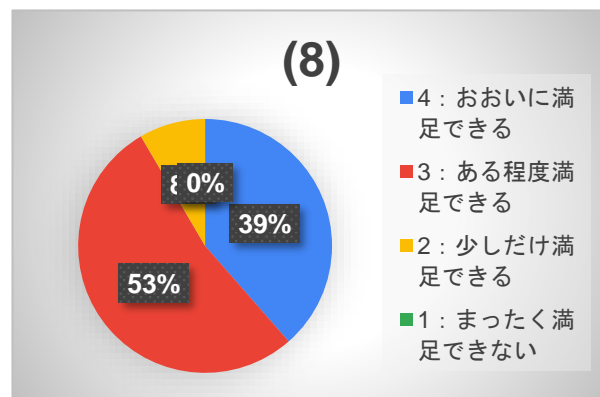
（7）異文化と自文化とを見渡す豊かな教養をもとに、多様な人々と協働し、対話する能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	29
3：ある程度達成できた	38
2：少しだけ達成できた	16
1：まったく達成できなかった	0
83	



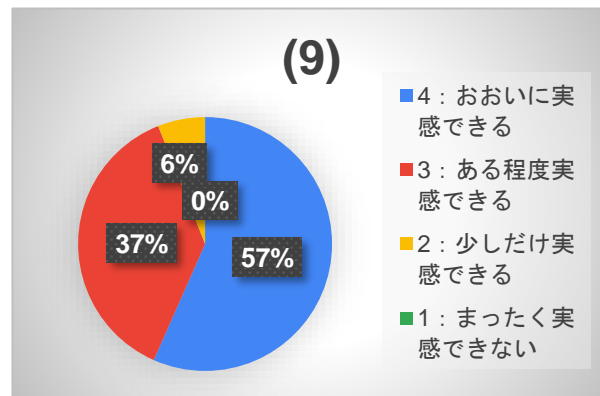
（8）大学4年間の学修を通じて、あなたは満足のいく成果をあげたと感じますか。

4：おおいに満足できる	32
3：ある程度満足できる	44
2：少しだけ満足できる	7
1：まったく満足できない	0
83	



（9）大学4年間の学修を通じて、あなたは自分が成長したと実感しますか。

4：おおいに実感できる	47
3：ある程度実感できる	31
2：少しだけ実感できる	5
1：まったく実感できない	0
83	



2020年度卒業時アンケートに関する考察（英語英文学科）

(1) 英語英文学科では、9つの質問項目のうち8つにおいて、「4. おおいに達成できた」あるいは「3. ある程度達成できた」と回答した者の合計が80%を超えるという結果になった。この結果は、同学科が「ディプロマ・ポリシー」に基づく適切な教育を行ってきたことの証左であり、英語英文学科の教育が一定以上の水準で成功していることが推測される。

(2) 特に、質問2「自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている」、質問3「現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている」、質問4「専攻する言語と文学、文化に関して、専門的な知見と技能を身につけている」、

## 学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 英語英文学科

質問5「専攻する言語や文学、文化について、特定の問題を掘り下げ、自ら調査、研究して考えをまとめることができる」、質問8「満足のいく成果をあげたと感じますか」、および質問9「自分が成長したと実感しますか」の6項目において、「4. おおいに達成できた」あるいは「3. ある程度達成できた」と回答した者の合計は90%を超えている。質問4や質問5など、専攻する学問分野に関する質問項目において高い達成度を学生が感じていることから、3年次以降における「3年セミナー」や「特別演習」を中心とした専門教育が一定水準以上の効果をあげていることが推測される。

(3) 質問6「専攻する言語について、高度なコミュニケーション能力を身につけている」については、「4. おおいに達成できた」あるいは「3. ある程度達成できた」と回答した者の合計は約64%にとどまっており、実践的な英語能力の涵養においては大いに改善の余地がある。英語運用能力が乏しいままで卒業する学生が少なからずいることは今後の大きな課題であり、改善の手立てを学科全体で模索する必要があると考えられる。

その一方で、当該質問項目の「高度なコミュニケーション能力」という文言が何を指すのかが不明瞭であり、どのような能力について問われているのかが見えにくいことから、質問項目自体が回答者に高いハードルを意識させているという可能性もある。このことが、他の質問に比して質問6への肯定的な回答の割合が低めに出るという今回の結果につながったとも考えられる。次回2021年度のアンケートでは、可能ならば質問6に注をつけるなどして、問いたい内容をより明確化することを検討しても良いかもしれない。

(4) 卒業生数107に対して回答数は83であり、回答割合が77.6%と全学部・全学科の中でもっとも低かった。対象学生への早い時期でのアナウンスや、アンケート回答のリマインドを適宜行うなどの改善策が考えられる。